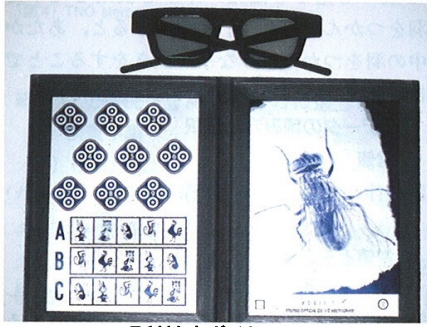


# 立体視の検査(Titmus Stereo Test:TST)

目的

近見での立体視(両眼視機能)を把握する  
定量検査

準備物 チトマスステレオテスト・偏光眼鏡



眼科検査ガイド P353

必要に応じて屈折矯正をし、**偏光眼鏡**を装着させ、反射がなるべく入らないように傾きを考慮して**40cm**の距離に図を保持する

ただし、眼位性眼振、上下筋不全麻痺、AV型斜視の症例では最も両眼視の得られやすい位置で検査してOK!

融像分離の前に行なう場合が多い。間歇性斜視だけでなく、視力差がある場合でも不可になることがあるよ。距離を変えると飛び出かたが変わるよ！偏光眼鏡を嫌がったり、鼻眼鏡になりやすいので注意！

YES **まず、ハエの羽を横からつまむように指示すると、浮き上がった所をつまむか？**

NO **上からつまむようにさせると浮き上がりの判別が困難であり、横からつまむようにさせる。**

YES **下方のLとRが同時に見え、片眼を遮閉すると立体感がなくなるか？**

外斜視の中には素早い交代視によりST(+)と判断する場合があります。チェックマークが交互に見えないかの確認を必ずすること。又、何が見えているかも聞くこと。

例) **羽の4cm位浮き上がった所を掴み、抑制もなかった！**

判定基準)

正常:検査面より3~6cm (PDにより差が出る)

fly(+)

再度確認をする

片方が消えている

消えている方の眼が抑制眼  
又は片眼の視力不良

NO **下方のLとRの片方が消えているか？又は交互に消えるか又は両方判らないか？**

YES **交互に消えている**

交代抑制

両方判らない

両眼の視力不良  
又は検査の理解が不可

この場合TST(-)の判定だが、とりえず次に進んでいくことが多い。顕性の偏位があれば中和して行うこともある。

動物ABCで飛び出ているものを誤答まであるいは判別困難になるまで順じ答えさせる

凹凸の意味が判らない場合があるので確認しておくこと。

例) **動物が3/3判った！**

偏光眼鏡上からでは判りにくい、絶えず眼位チェックを怠らないこと。両眼分離効果があるので間歇性の場合、斜視になり易い。また幼児で、読みわけ困難がある場合、厚紙を見る箇所のように切り抜いてその位置だけ見るようにさせることもある。

次に1から9までの**4つの円**のうち誤答まであるいは判別困難になるまで、飛び出ているものを順じ答えさせる

幼児には理解しやすい尋ね方をすること。立体視がない場合、円のずれているものを指す場合があるので注意すること。途中で片眼を隠してみ、比較するのも1つの手。

例) **円が7/9判った！**

必要ならば**検査表**が**偏光眼鏡**を上下逆にして凹みを検査して確認する

内斜位に有効。偏光は左右逆にしても向きは同じだよ！ただし装着できるように上下逆にするOK。

結果・記載例)

TST (SC)  
fly (+) 4cm Supp(-)  
circles (9/9) 40  
animals (3/3) 100

ハエ(+)の場合、浮きあがっている距離を記載する。抑制の場合、L・Rの見えた状態を記載する。(R・Supp(+), Alt・Supp(+))など。円及び動物は正答数あるいは立体視度差で示す。

判定基準)

視能学 P304  
正常値 : 40 (9/9)  
視能学 P453  
両中心窩立体視の基準 : 60 (7/9)  
3歳以上の治療基準 : 40 (9/9)  
3歳未満の治療基準 : 100 (5/9)

参考 各図形の立体視度差

図形	種類	立体視度差(秒)
円	1	800
	2	400
	3	200
	4	140
	5	100
	6	80
	7	60
	8	50
	9	40
動物	A	400
	B	200
	C	100

判定例)

立体視正常範囲内

自分の結果を書いておこう！